

# 基礎分野

科学的思考の基盤

## シラバス

科目名	思考と表現	単 位	1	時 間 数	30	開 講 時 期	1 年次前期	担 当 者	岡村 信孝
学習のねらい	論理的に考え、表現し、対話する意義と方法について学ぶ。								
目的・目標	目的；論理的思考や表現能力を身につける。 目標；1. 論理的に物事を捉え、表現することができる。 2. レポートや論文の書き方、議論の仕方について理解する。								
授業計画	1 回 (45 分×2) 授業の目的と進め方 2 回 (45 分×2) 非言語的コミュニケーションのやり方と効果 3 回 (45 分×2) 言語的コミュニケーションのタイプ分け 4 回 (45 分×2) コミュニケーションを妨げるもの 5 回 (45 分×2) よき指導と悪しき指導の在り方 6 回 (45 分×2) 分かりやすい文章の書き方について 7 回 (45 分×2) エッセイと論文の違いについて 8 回 (45 分×2) 文と文の接続の仕方、語の区切り方、展開の仕方 9 回 (45 分×2) テーマについての意見交換 10 回 (45 分×2) 推理、推論の基本形 11 回 (45 分×2) 条件関係、価値判断の種類分け 12 回 (45 分×2) レポートの書き方 13 回 (45 分×2) 論説文を書く力を伸ばすために 14 回 (45 分×2) 論説文の書き方 15 回 (45 分×2) 筆記試験								
評価方法	筆記試験 (50%) と最終レポートないし小論文 (50%) で評価する。								
教科書									
参考文献	授業中に紹介する。								
履修要件									

## シラバス

科目名	情報科学	単 位	2	時 間 数	30	開 講 時 期	2 年次前期	担 当 者	柳原 佐智子
学習のねらい	医療や看護の環境でコンピューターを含む情報機器の活用は不可欠であり、情報の概念を把握し、将来の専門に役立てる情報科学の基礎を学ぶ。								
目的・目標	目的；情報の概念を把握し、情報科学の基礎を身につける。 目標；医療・看護における情報の重要性を理解し、情報の生成・変換・伝達方法について学ぶ。								
授業計画	1 回 (45 分×2) 授業概要説明 2 回 (45 分×2) 情報とは何か 高度情報社会の業務の進め方とは 3 回 (45 分×2) 社会の情報化のこれまで、現在、未来 4 回 (45 分×2) 情報システムとは何か 医療の情報システム活用 5 回 (45 分×2) インターネットとセキュリティ 6 回 (45 分×2) 個人情報とプライバシー AI とロボット 7 回 (45 分×2) AI 利用が進んだ今後の医療と社会 看護研究の概要 8 回 (45 分×2) Word 実習 9 回 (45 分×2) Excel 実習 10 回 (45 分×2) Word Excel 課題 11 回 (45 分×2) Word Excel 課題 12 回 (45 分×2) Power Point 実習 13 回 (45 分×2) Power Point 実習 14 回 (45 分×2) Power Point 課題 15 回 (45 分×2) Power Point 課題 最終研究課題								
評価方法	試験 (20%)、レポート (80%) により評価する。								
教科書	30 時間でマスター Office2016 (Windows10 対応)								
参考文献									
履修要件									

## シラバス

科目名	統計学	単 位	1	時 間 数	15	開 講 時 期	2 年次後期	担 当 者	阿 閉 進
学習のねらい	現象を捉えるため、記述統計・推計統計の視点で情報を加工できる能力を養う。								
目的・目標	目的；基本的な統計データの整理や統計資料の解読の方法を理解する。 目標；基本的な統計値の意味を理解し、計算することができる。								
授業計画	1 回 (45 分×2) 統計学序説 基本統計量について 代表値 (平均、中央値、モード) の種々の求め方について 2 回 (45 分×2) 標準偏差の計算および標準偏差を使った応用について 3 回 (45 分×2) 相関係数の計算、演習および相関表の考え方について 4 回 (45 分×2) 回帰直線の方程式の求め方 記述統計の総復習 5 回 (45 分×2) 推測統計の導入、推定、区間推定の考え方と計算練習 6 回 (45 分×2) 区間推定の復習および検定の考え方 7 回 (45 分×2) 検定 (片側、両側) 問題演習 適合度の検定の考え方、分割表の検定 8 回 (45 分) 試験								
評価方法	課題 (50%) および試験 (50%) により評価する。								
教科書	水野 恭之 著 : 看護学系の統計入門 培風館								
文献参考									
履修要件	情報科学 基礎看護学								

## シラバス

科目名	法学	単 位	1	時 間 数	30	開 講 時 期	2年次後期	担 当 者	後藤 智
学習のねらい	社会の一員としてのルールを学び、専門職として社会的責務と業務上の責任を自覚することをねらいとする。法とは何かという基本的知識を学び、様々な問題を考えるときの判断の拠り所としてほしい。また、基本的人権の考え方を学び、患者さんの人権を保障できる看護師になってもらいたい。								
目的・目標	目的； 看護職として職務を遂行するための根拠や判断基準について考えることができる。 目標； 法（法学）や法制度についての基礎的知識や法的な考え方の基本を理解する。 事例などを通じて人権問題について考えることができる。								
授業計画	1回（45分×2） ガイダンス 保助看法上の看護師の「定義」と「業務」 2回（45分×2） 看護師の業務と「想像力」「観察力」 医療行為が正当化される理由 3回（45分×2） 法とは何か①：法源（法の存在形式）、法の効力順位 4回（45分×2） 法とは何か②：法の実質的定義、社会規範の一種としての法、 法と他の社会規範との異同 5回（45分×2） 法とは何か③：権利の体系としての法 6回（45分×2） 法とは何か④：憲法、立憲主義の意味 7回（45分×2） 医療と法①：医療ミスと医療従事者の法的責任 8回（45分×2） 医療と法②：患者の権利Ⅰ 9回（45分×2） 医療と法③：患者の権利Ⅱ 10回（45分×2） 医療と法④：自己決定権、インフォームドコンセント 11回（45分×2） 医療と法⑤：事例で考える「患者の権利」 12回（45分×2） 医療と法⑥：看護師の労働実態と法 13回（45分×2） 法と裁判①：権利保護の「最後の砦」としての裁判 14回（45分×2） 法と裁判②：裁判の実像 15回（45分×2） 法と裁判③：裁判員裁判 筆記試験								
評価方法	筆記試験（50%）・レポート結果（50%）を評価とする。								
教科書									
参考文献	基礎看護学								
履修要件									

## シラバス

科目名	物理学	単 位	1	時 間 数	30	開 講 時	1 年次前期	担 当 者	石川 義和
学習のねらい	物理学的根拠に基づいた実践ができるよう、基礎知識を習得しそれを応用できるような能力を育てる。								
目的・目標	目的； 物理学を通し、看護活動における様々な行動・現象を説明する力を養う 目標； 力学に関する基本的な考え方を理解する 看護技術の根拠を物理学視点で理解する 医療現場で用いられる機器の作動原理について理解する								
授業計画	1回 (45分×2) 力の合成と分解 2回 (45分×2) 単位の話とトルク 3回 (45分×2) トルクの知識 4回 (45分×2) エネルギー、安定・不安定 5回 (45分×2) 撃力と骨折 6回 (45分×2) つりあいと牽引 7回 (45分×2) 復習と中間テスト 8回 (45分×2) 温度、比熱、融解、気化 9回 (45分×2) 熱の伝わり方 10回 (45分×2) 圧力と大気圧 11回 (45分×2) 血圧、ゲージ圧、オートクレーブ 12回 (45分×2) 光の性質、紫外線、赤外線 13回 (45分×2) ファイバースコープの原理、屈折、視力 14回 (45分×2) 放射線の基礎知識 15回 (45分×2) まとめ 最終テスト								
評価方法	中間試験 (50点) と最終試験 (50点) により評価する。								
教科書	平田 雅子 著 : 完全版ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学ー Gakken								
参考文献	基礎看護学								
要件履修									